

I 学校の沿革

1 沿革の概要

年 月 日	事 項
明治43. 2. 22	鹿児島県立商船学校に明治43年4月より水産学校規程本科程度による水産科を併置し、その名称を鹿児島県立商船水産学校と変更の件認可（定員90名）
〃 43. 4. 1	水産科授業を開始、生徒30名入学
〃 43. 7. 21	鹿児島市山下町より学校位置を同市下荒田町に移転
〃 44. 2. 25	鹿児島県立商船学校を鹿児島県立商船水産学校に改む
大正2. 1. 14	学則の一部を改正し水産科を漁撈・製造の二科に分ち、第一学年を終了後志望によりその一科を終了せしむ
〃 8. 2. 18	漁撈実習船桜島丸を本県水産試験場より保管転換錦江丸と改称
〃 9. 11. 30	食品製造実習室及び養魚池竣工
〃 14. 5.	漁撈実習船桜島丸竣工
〃 15. 2.	学則の一部を改正し修業年限3年制を4年制に延長する
昭和4. 4. 1	鹿児島県立商船水産学校水産科を県立薩南工業学校枕崎分校造船科と合併し、県立枕崎造船水産学校として発足し、新たに水産科の募集を開始、修業年限5か年校地4,883坪（校舎その他の資料は震災のため焼失）
〃 6. 4. 1	鹿児島県立枕崎水産学校と改称し、造船科を廃止5年制独立校となり、漁撈科、水産製造科、水産増殖科を置き、定員250名とする。
〃 11. 3. 20	実習養魚池竣工、池面積820坪
〃 19. 4. 1	臨時措置令により、修業年限4か年となる。
〃 20. 7. 29	震災を受け、校舎施設の大半を焼失
〃 20. 9. 17	枕崎台風により、残存建物倒壊
〃 21. 4. 1	臨時措置令解かれ、修業年限5か年となる。
〃 21. 9. 1	校舎復旧、第一期工事竣工本館（木造）108坪
〃 23. 3. 10	P T A 発足
〃 23. 3. 30	校舎復旧、第二期工事竣工本館（木造）149坪
〃 23. 4. 1	学制改革に伴い、鹿児島県枕崎高等学校が設置せられ、水産学校を第一部、高等女学校を第二部と改称する。併設中学校置く。
〃 24. 3. 30	校舎復旧、第三期工事竣工284.25坪
〃 24. 4. 1	制度改革に伴い、第一部は鹿児島県枕崎水産高等学校と改称し、第二部は枕崎高等学校として独立する。
〃 25. 3. 31	実習船若潮丸（14.88トン、焼玉機関25馬力）進水
〃 26. 4. 1	水産増殖科を廃し、漁船機関科を設置する。
〃 26. 10. 14	ルース台風のため校舎倒壊等790.25坪にのぼる災害を受く。
〃 27. 11. 15	1. 第4期災害復旧工事竣工 イ 本館、漁業実習室および宿直室補修 ロ 旧倉庫（15坪）を機関事務室に改造する。 2. 機関科実習室57坪（内2坪廊下）新築
〃 28. 6.	運動場2,803坪、西側畑198坪枕崎市より寄付を受く。
〃 28. 10. 30	鉄筋校舎竣工並びに開校40周年、創立25周年記念式典
〃 30. 7. 13	養魚池並びに付属建物をP T Aに払下許可（条件付）
〃 30. 9. 28	P T Aより寄宿舎敷地515坪の寄付を受く。
〃 30. 12. 24	寄宿舎40坪（青雲寮）
〃 31. 8. 20	実習船桜島丸竣工
〃 31. 8. 27	実習船若潮丸川辺郡坊津町泊386番地坂上虎吉氏へ売却
〃 31. 9. 9	台風12号により冷蔵室8坪全壊
〃 33. 3. 31	寄宿舎50坪増築
〃 33. 10. 2	実習船桜島丸マーシャル群島ピカール島にて座礁
〃 35. 9. 30	薩摩青雲丸竣工
〃 35. 10. 12	創立50周年記念式典
〃 36. 4. 1	鹿児島県立鹿児島水産高等学校と改称する。
〃 37. 3. 31	寄宿舎1棟（58坪）増築
〃 37. 4. 1	漁業専攻科・機関専攻科を設置、及び水産製造科1学級増設
〃 37. 10.	艇庫（20坪）新築
〃 38. 4. 1	無線通信科新設1学級募集・機関科1学級増設
〃 38. 5. 10	鉄筋校舎（233坪）完成
〃 38. 12. 26	鉄筋校舎（80坪）完成
〃 39. 3.	漁業実習室（30坪）、電気実験室（15坪）完成